

大間原子力発電所審査資料	
資料番号	OM1-CA125-R01
提出年月日	2020年9月14日

大間原子力発電所

敷地周辺及び敷地近傍の地質・地質構造

(コメント回答 その10)

(sF 断層系に関わるボーリングコアの地質柱状図, コア写真及び BHTV 画像)

【抜粋版】

2020年9月

電源開発株式会社

本資料のうち で示す箇所は、商業機密あるいは防護上の観点から公開不可としているもので、白抜きとしてあります。

大間原子力発電所

敷地周辺及び敷地近傍の地質・地質構造

(コメント回答 その10)

(sF断層系に関わるボーリングコアの
地質柱状図, コア写真及びBHTV画像)

2020年9月14日

電源開発株式会社

本資料のうち で示す箇所は、商業機密あるいは防護上の観点から公開不可としているもので、白抜きとしてあります。



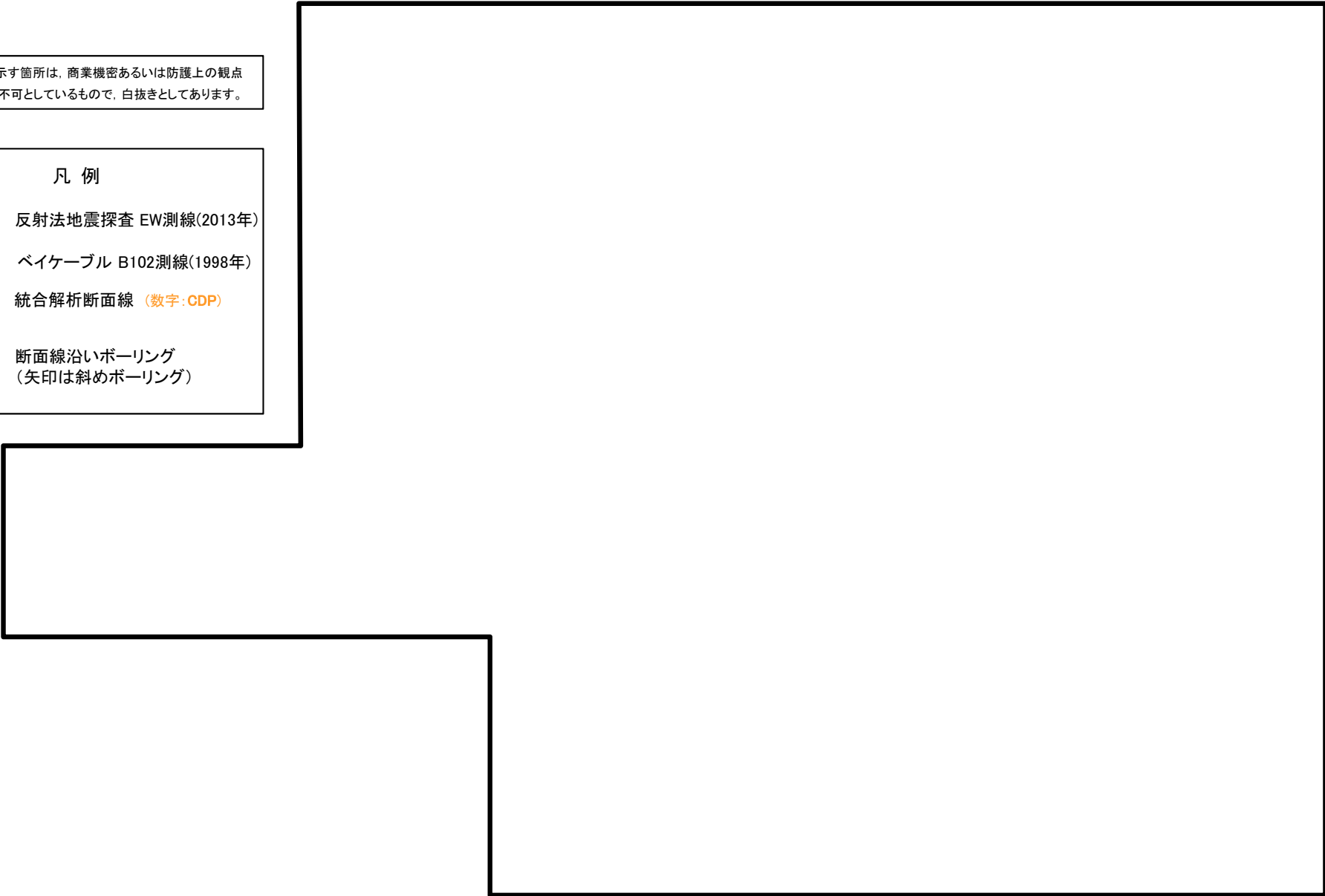
1. ボーリング調査位置図(3/5)

敷地におけるsF断層系のボーリング調査位置図(3/3)

□で示す箇所は、商業機密あるいは防護上の観点から公開不可としているもので、白抜きとしてあります。

凡例

- 反射法地震探査 EW測線(2013年)
- バイケーブル B102測線(1998年)
- 統合解析断面線 (数字:CDP)
- 断面線沿いボーリング (矢印は斜めボーリング)



注) 海域のdF断層系の断層については、個別の断層名を区別せずに扱うが、識別する必要がある場合を踏まえ、断層名をdF-m1及びdF-m2断層として記載する。

3. 地質柱状図(46/158)

IT-64孔 深度0m~30m

標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)		R Q D (%)	記事
									0	100		
1	0.70	-4.49	××××	易固間層 下部層	粗粒凝灰岩	tlf	黄灰	100	18	31	100	0.00m~0.15m: 欄外不詳。
2			××××		粗粒凝灰岩	ctf	暗灰	100	16	55	100	
3			××××	易固間層 上部層	粗粒凝灰岩 凝灰岩	tlf/ctf	黄灰・暗灰	100	11	22	100	8.55m: 見掛けの傾斜角約40°, 幅約0.7cmの変位を伴う不連続面がある。密着する。 9.00m~9.33m: 粗粒凝灰岩をフロッグ状に含む。
4			××××					100	18	34	100	
5			××××					100	20	61	100	
6			××××					100	16	32	100	
7	6.90	-7.45	××××					100	48	100	14.39m: 見掛けの傾斜角約20°, 幅約0.5cmの変位を伴う不連続面がある。密着する。	
8			××××					100	78	93	100	
9			××××					100	27	75	100	
10			××××					100	41	87	100	
11			××××					100	92	92	100	
12			××××					100	67	100	16.00m: 見掛けの傾斜角約50°の断面(dF-3)がある。凝灰幅約9.0cm~約15.0cmで固結した砂状物風みからなり、凝灰部上面では幅約0.1cmの粘土を挟み、明瞭な変位基準が見られず、見掛けの鉛直変位量は不明である。	
13			××××	100	21	21	100					
14	14.39	-11.03	××××	100	69	69	100					
15			××××	100	29	85	100					
16	16.00	-11.79	××××	100	33	100	25.41m~25.51m: 大規模の凝灰質凝灰岩をフロッグ状に含む。境界は凹凸著しく不規則。 25.91m~28.50m: 粗粒凝灰岩が分布する。 28.23m: 厚さ約1.0cmのシート(S-10)がある。 28.99m: 見掛けの傾斜角約20°の変位を伴う不連続面がある。コアではシート(S-10)を含む粗粒凝灰岩が切られている。見掛けの鉛直変位量は不明。 29.37m: 見掛けの傾斜角約20°の変位を伴う不連続面がある。幅約1.0cm程度の黄灰色粗粒凝灰岩を挟む。見掛けの鉛直変位量は不明。 29.79m~29.88m: 粗粒凝灰岩をフロッグ状に含む。					
17			××××	100	13	55	100					
18			××××	100	14	48	100					
19			××××	100	15	38	100					
20			××××	100	26	74	100					
21			××××	100	29	82	100					
22			××××	100	20	76	100					
23			××××	100	34	74	100					
24			××××	100	26	62	100					
25	25.10	-16.14	××××	100	31	57	100					
26	25.65	-16.40	××××	100	19	48	100					
27			××××	100	35	97	100					
28	28.50	-17.76	××××	100	12	33	100					
29	29.37	-18.17	××××	100	20	62	100					

注) 柱状図記事欄の深度16.00mに記載している1断面(dF-3)については、本編資料等ではdF-m4断面に該当する。

3. 地質柱状図(104/158)

IT-66-e孔 深度300m~330m

標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)		最大コア長 (cm)		R Q D (%)		記事
								0	100	0	100	0	100	
300								100	100	51	100	100		
301								100	100	55	100	100		
302								100	100	81	100	100		
303								100	100	33	100	98		303.27m~303.31m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 303.49m~303.51m: 酸性凝灰岩が分布する。 303.58m: 厚さ約2.0cmのソーム(S-Om)がある。 304.45m~304.47m: 酸性凝灰岩が分布する。 304.71m~304.75m: 酸性凝灰岩が分布する。 305.10m~305.13m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。
304								100	100	61	100	100		
305	305.18	-283.50						100	100	57	100	100		
306								100	100	41	100	100		
307								100	100	47	100	97		
308								100	100	36	100	71		
309								100	100	44	100	89		
310								100	100	37	100	60		311.19m: 見掛けの傾斜角約90°~約45°の要位を伴う不連続面がある。破砕幅約47cmで、310.95m~311.01m間では幅約4.0cm~約9.0cmの粘土質物質を採在する。
311	311.19	-289.14						100	100	16	100	28		
312								100	100	43	100	75		312.87m~312.98m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 312.99m~313.25m: ソルト岩をブロック状に含む。
313								100	100	49	100	69		313.15m: 見掛けの傾斜角約50°~約60°の断層がある。破砕幅は約66cmである。近傍のボラーシトの対比からdf-a断層と判断される。
314								100	100	13	100	13		315.65m~315.76m: ソルト岩をブロック状に含む。
315								100	100	51	100	93		315.98m: 厚さ約1.3cmのソームがある。 316.45m~316.47m: 酸性凝灰岩が分布する。 316.47m: 厚さ約1.0cmのソームがある。 317.20m~317.25m: 酸性凝灰岩が分布する。 317.69m~317.75m: 酸性凝灰岩が分布する。
316								100	100	43	100	86		
317								100	100	27	100	98		
318								100	100	46	100	81		319.35m~319.41m: 酸性凝灰岩が分布する。 319.82m~319.87m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 320.19m: 見掛けの傾斜角約50°の要位を伴う不連続面がある。見掛けの傾斜角は約11.0cm以上、密着している。 320.30m~320.32m: 酸性凝灰岩が分布する。 321.23m~321.35m: 酸性凝灰岩が分布する。
319								100	100	30	100	73		322.11m~322.17m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 322.58m~322.61m: 酸性凝灰岩が分布する。
320								100	100	46	100	88		
321								100	100	28	100	89		
322								100	100	55	100	89		323.65m~323.70m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 324.32m~324.33m: 酸性凝灰岩をレンズ状に含む。
323								100	100	23	100	83		325.25m付近: ソルト岩の裏入面は見掛けの傾斜角約50°で密着している。
324								100	100	19	100	29		
325								100	100	22	100	49		
326								100	100	10	100	10		
327								100	100	17	100	57		
328								100	100		100			
329								100	100		100			
330								100	100		100			

(注) 柱状図記事欄の深度315.63mに記載している「df-a断層」については、本編資料等ではdf-m1断層に該当する。



3. 地質柱状図(129/158)

S-624孔 深度60m~90m

孔名: S-624		孔口標高: T.P. -5.99m		掘削長: 170.00m (6-3)							
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
60	61.33	-67.32	△△△△	奥国側層 下部層	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	97	97	76.00m~76.04m: 黒色の急角円縁粗粒が認められる。 76.04m~76.36m: 細粒凝灰岩が分布する。 76.29m: 厚さ約1.3cmのレームがある。 76.42m~76.45m: 細粒凝灰岩が分布する。 76.43m: 厚さ約0.5cmのレームがある。 79.37m: 厚さ約1.5cmのレーム(S-6)がある。 79.00m付近: 82.95m付近: 厚さ約3cmの細粒凝灰岩が分布する。 81.29m~81.36m: 細粒凝灰岩が分布する。 81.19m: 厚さ約0.3cmのレームがある。 81.53m: 厚さ約1cmの細粒凝灰岩が分布する。 85.54m: 厚さ約3cmの細粒凝灰岩が分布する。 88.18m~88.21m: 細粒凝灰岩が分布する。 88.19m: 厚さ約0.3cmのレームがある。 89.19m~89.47m: 細粒凝灰岩が分布する。 89.45m: 厚さ約0.2cmのレーム(S-2)がある。 89.75m: 傾斜角約90°の断層(df-a)がある。破砕部は認められない。
61	61.33	-67.32	△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	22	87	
62			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	30	84	
63			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	53	100	
64			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	51	94	
65			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	35	100	
66			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	49	92	
67			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	63	94	
68			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	65	100	
69			△△△△		安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	35	75	
70			△△△△	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	38	97		
71			△△△△	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	40	100		
72			△△△△	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	20	72		
73			△△△△	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	23	100		
74			△△△△	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	82	82		
75			△△△△	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/暗黄灰	100	32	91		
76	76.04	-82.03	△△△△	奥国側層 下部層	粗粒凝灰岩	df/cef	黄灰-灰	100	30	76	
77	77.56	-83.35	△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	49	93	
78	78.51	-84.50	△△△△	奥国側層 下部層	安山岩溶岩 (角礫状)	bkw	黒/黄灰	100	81	100	
79	79.28	-85.27	△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰-暗灰	100	34	87	
80	79.43	-85.42	△△△△	奥国側層 下部層	粗粒凝灰岩	df	黄灰	100	34	87	
81			△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	55	89	
82			△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	67	93	
83			△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	34	94	
84			△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	27	84	
85			△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	38	74	
86			△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	65	91	
87			△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	86	96	
88	88.30	-94.29	△△△△	奥国側層 下部層	暗灰色火山凝灰岩	da/f	黒/黄灰	100	71	100	
89	89.37	-95.36	△△△△	奥国側層 下部層	粗粒凝灰岩 / 暗灰色火山凝灰岩	df/da/f	黒/黄灰	100	35	100	

注) 柱状図記事欄の深度89.78mに記載している「断層(df-a)」については、本編資料等ではdf-m1断層に該当する。